



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— COP 26 から教訓を得る!! —

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人つくしまNPOネットワーク)

■COP 26

10月下旬から「COP 26」という用語を、新聞やテレビで頻繁に見かけました。英国・グラスゴーで10月31日から11月12日までの予定で開催された国連気候変動枠組条約締約国会議のことです。会期を延長し、産業革命前からの気温上昇を「(従来の2℃ではなく)1.5℃」に抑えることを世界目標にすることで大筋の合意ができました。ちなみに、京都議定書(Kyoto Protocol)はCOP 3(1997年)で、パリ協定はCOP 21(2015年)で採択されました。

■英国スコットランド・グラスゴーから

約130か国の代表団、科学者、環境保護活動家など2万5000人以上が集まり、地球温暖化防止にかかわる様々なことを話し合いました。会期中に、削減目標の引き上げを表明する国が相次ぎました。温室効果ガスの一つであるメタン(CH₄)排出の削減や二

酸化炭素の吸収源である森林破壊の防止には、日本をはじめ100か国以上が参加しました。残念なのは、石炭火力発電の停止に日本は参加しませんでした。

■生態系と創薬

つくしま地球温暖化防止活動推進員で、奥羽大学薬学部講師の熊本隆之さんにお話をお聞きしました。「温暖化が進み生態系が壊れると、薬の製造にも影響が出るかもしれません。ペニシリンと青カビ、大村智さんたちのチームが開発してノーベル賞の受賞理由にもなったイベルメクチンという物質は、ゴルフ場近くの土から見つけた物質がもとになっています。薬の4割は、自然からの贈り物なのです。」

■みんなのできる地球温暖化防止活動

「自分ごと化が大切です。単に知識として知っていないのではなく、自分にできることをやってみることで。環境配慮行動、行動変容ですね。」と熊本さん言います。「シロクマやペンギンがかわいそうという気持ちだけではなく、猪苗代湖の清掃活動に参加するだけで、地球温暖化のことが身近になります。」

12月は「地球温暖化防止月間」です。国も、企業も、市民一人ひとりも、地球市民として「自分ごと化」が喫緊です。

(連絡先) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>